

# 平成 28 年度 子供・若者育成支援のための地域連携推進事業 「北海道・東北ブロック研修会」 平成 28 年 9 月 2 日（金）かでの 2・7（札幌市）

## 道内・東北6県の子供・若者の現状や課題を協議



当協会の創立 50 周年記念事業（青少年育成運動活性化研究協議会）を兼ねて、内閣府・道との共催により、「北海道・東北ブロック研修会」を開催し、道内や東北 6 県の青少年育成関係者、約 250 名が参加しました。

当研修会では、内閣府より「子供・若者育成支援施策について」の説明後、各事例検討会（4 分科会）にて、活発なグループ協議や意見交換が行われ、その後、全体会議（各分科会報告）が開催されました。

各分科会コーディネーターにより報告された、協議内容は次のとおりです。

### 事例検討会（分科会）

#### ●第 1 分科会 「若者による地域づくり」

コーディネーター 函館市地域交流まちづくりセンター センター長 丸藤 競 氏

キーワードは「自己肯定感」でした。「若者自身が出来ることを大きくしていくにはどうすればいいか」が議論の柱となりました。若い人は色々始めたがるが、着地（目的やゴール）が出来ていないので、周りの大人や地域、行政は良い着地ができるように支援することが重要。また、誰がどこで、どんな事をしているかという情報が乏しいので情報収集も含め、何か行動をする時、失敗を恐れず「トライアンドエラー」を繰り返すことが大事。そのような思考で活動できるよう、周囲が支援していくことが、今後、必要となってくる。

#### ●第 2 分科会 「子供・若者の居場所」

コーディネーター NPO 法人コミュニティワーク研究実践センター 理事長 穴澤 義晴 氏

居場所の大切さ、そこが誰のためのものなのか協議の焦点となりました。施設に来る人のための場所となっているか、施設運営者のための場所になっていないか。また、就労支援している人など、一定の人のための場所ではなく、引きこもりの人が外部と接点を持つなど、様々な人が混じり合う場所にしなければいけないという声も挙がりました。そして、地域の人がヨコのつながりを持てるように、気軽に来てもらえる場所こそが、子どもの発達を促し、居場所本来の役割である。

#### ●第 3 分科会 「困難を抱える子供・若者の支援」

コーディネーター（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 企画事業課若者支援担当課長 松田 考 氏

事例発表者から困難を抱える若者を支援していくと、その時々（親を支える時期、就労をする時期、医療機関の紹介など）で係わり方が変わり、様々な機関の支援が必要となると話があり、グループ協議では、各機関との連携の大切さ、難しさをテーマにディスカッションしました。漂流してきた若者は、色んなところで専門家がベストを尽くし流れ着いたのであって、専門分野の垣根を超えてどう連携するかが重要であり、地域の育成委員や民生委員さんなどの係わりが必要である。

#### ●第 4 分科会 「少年非行の新たな動向と対応」

コーディネーター 北海道警察本部 生活安全部少年課非行対策第一課長補佐 宮下 英昭 氏

少年非行とスマホ・ネットは切り離せない関係であり、家庭での課題の 1 つであるが、地域、社会全体で総合的に推進しなければならない問題である、という共通認識を持ち、協議を始めました。現在、小さいときからネット環境で育ち、大人が子どもの技術力について行けないことや、40～60代はまだスマホの所持率が低いなど、子どもとの差が顕著に出ており、地域ではネットに強い大人を育てる動きもある。今後の少年非行は、ネット絡みが多くなると思われ、益々、大人がスマホ・ネットの現況を理解していく必要がある。